第１回（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会　会議記録

日　時：令和３年10月25日（月）15:00～17:00
場　所：さっぽろテレビ塔　２階　しらかば・あかしあ
出席者：

（(仮称）はぐくみの軸強化方針検討会　委員）

北海道大学大学院　農学研究院　准教授	愛甲　哲也　氏
株式会社石塚計画デザイン事務所　顧問	石塚　雅明　氏
北海学園大学工学部　教授	岡本　浩一　氏
北海道大学大学院工学研究院　教授	高野　伸栄　氏
北海道大学観光学高等研究センター　教授	西山　徳明　氏
札幌商工会議所住宅・不動産部会副部会長 （株式会社藤井ビル　代表取締役）	藤井　將博　氏
千葉大学大学院工学研究院　教授	村木　美貴　氏
札幌市立大学デザイン学部　准教授	森　　朋子　氏
独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部 北海道まちづくり支援事務所　所長	門田　高朋　氏

（事務局）

札幌市まちづくり政策局長	小角　武嗣
札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室長	稲垣　幸直
札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室 都心まちづくり課長	岩田　朋道
札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室 都心まちづくり課エリアマネジメント担当係長	佐藤　大輔

（関係部局）

札幌市建設局みどりの推進部長	齋藤　英幸
札幌市建設局みどりの推進部みどりの推進課長	中田　稔
札幌市建設局みどりの推進部みどりの推進課 企画係長	黒澤　佑介

議　事：

（札幌市　岩田都心まちづくり課長）

定刻となりましたので、ただ今から、第１回（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会を開催いたします。本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は事務局の、札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室の岩田と申します。よろしくお願いいたします。それでは、開会にあたり、札幌市まちづくり政策局長の小角よりご挨拶を申し上げます。

（札幌市　小角まちづくり政策局長）

札幌市まちづくり政策局長の小角と申します。どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様には、このたび、（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会委員をお引き受けくださいましてまことにありがとうございます。また本日、大変お忙しい中、この検討会にご出席いただきまして、重ねてお礼申し上げます。

このはぐくみの軸と呼ばれているのは、都心の街並みを形成いたします骨格軸の一つでございます。この大通公園を中心に、東西方向で言いますと西は資料館、東に行きますと豊平川、南北では大通公園を中心に南北の街区一丁各程度を含むエリアとなっています。

骨格軸というのが、都心の街並みを形成するうえで、歴史的な価値ですとか、あるいは果たす機能、こういったところに着目して、特に重要な軸線ということで定めているところでございまして、特にこのはぐくみの軸につきましては、平成 14 年に策定いたしました都心まちづくり計画の中ではぐくみの軸という名称をつけております。当時の理念といたしましては、大通公園を中心オープンスペースにおける様々な市民の活動の場、そして周辺の街区も含めまして芸術文化活動の場、こういったものを創出していく、そういう軸線なんだという想いを込めまして、はぐくみの軸ということで名付けたと、そのように位置づけられております。

本日は令和 4 年度末に予定をしております、（仮称）はぐくみの軸強化方針の策定におきまして、その内容について委員の皆様と意見交換をさせていただく、そのような場として開催をさせていただくものでございます。

本市は 2022 年度、来年度ですが、市制施行 100 周年となります。また政令市に移行して 50 周年、そういった年度となりますが、現在都心におきましては 2030 年度末に予定されております北海道新幹線の札幌延伸でございますとか、あとは同年招致を目指しております冬季オリンピック・パラリンピックを契機として活発な開発が見込まれ、大きな転換期を迎えているところでございます。

このはぐくみの軸と呼ばれている大通につきましては、150 年前の 1871 年、南北市街地の火災延焼を防ぐ防火線として設置されて以来、時代にあわせて姿を変えながら、札幌を支える基盤としての役割を果たしてきたレガシーでございます。100 年、150 年といった節目、

また新型コロナウィルス感染症により社会情勢が大きく変わりつつある中、今後の札幌の発展を支える重要な骨格軸として、はぐくみの軸の役割を改めて考え、まちづくりに寄与すべく、方針策定を進めているところでございます。

本日は本市における検討内容についてご説明させていただいたうえで、皆様の知見を活かした闊達なご議論および忌憚のないご意見を頂けますよう何卒よろしくお願いいたします。甚だ簡単ではございますが、検討会の開催にあたりまして、ご挨拶とさせて頂きます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（札幌市　岩田都心まちづくり課長）

本日は、第１回の検討会であり、座長の選出までの間、私が進行を務めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。まず初めに、配付資料の確認をさせていただきます。次第、資料１　座席表、資料２（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会委員名簿、資料３（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会設置要綱、資料４　第１回検討会資料、参考資料 現況写真、以上ですが、不足はございませんでしょうか。

それでは続きまして、委員の皆さまを順にご紹介させていただきます。北海道大学大学院農学研究院准教授、愛甲哲也様。株式会社石塚計画デザイン事務所顧問、石塚雅明様。北海学園大学工学部教授、岡本浩一様。北海道大学大学院工学研究院教授、高野伸栄様。北海道大学観光学高等研究センター教授、西山徳明様。札幌商工会議所住宅・不動産部会副部会長、株式会社藤井ビル代表取締役、藤井將博様。千葉大学大学院工学研究院教授、村木美貴様。札幌市立大学デザイン学部准教授、森朋子様。独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部北海道まちづくり支援事務所所長、門田高朋様。

続きまして、事務局を紹介させていただきます。本会議の事務局を務めます、札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室です。続きまして、札幌市建設局みどりの推進部です。また、検討会の運営にあたってお手伝いいただいている、本市の委託業務の受託者であります、株式会社日建設計です。

つづいて、座長の選出に移らせていただきます。設置要綱の第５条におきまして、「検討会に座長１名を置き、委員の互選によりこれを定める。」こととしております。候補者につきまして、立候補、あるいは推薦等、ございませんでしょうか。

（意見なし）

ご意見が無いようですので、事務局から座長候補を推薦させていただき、皆様に承認していただくということで、よろしいでしょうか。事務局の案としては、都市計画に精通し、国内外のまちづくりに関する知見をお持ちであるとともに、第 2 次都心まちづくり計画や都心エネルギープランなど、本市の都心に関する行政計画策定に関わってこられた、村木委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。村木委員にお願いすることを承認

される方は拍手をお願いいたします。（拍手）

ありがとうございます。それでは、当検討会の座長は、村木委員にお願いすることといたします。村木委員は、座長席へのご移動をお願いいたします。それでは、村木座長から一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

（村木座長）

ただいま座長に選任されました千葉大学の村木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。北海道の先生方のところで、私のような東京からの人間がまとめ役をさせていただくのは申し訳ないと思っておりますが、交通整理ということかな、と自分の立場を認識しております。ただ私自身も 16 年くらい札幌市の計画作りに関わってきていて、研究面でもかなり都心のエネルギー計画、開発と連動したものというものをずっと関心を持って進めてきました。かなり北海道のことを色々勉強させて頂いておりますので、一緒に札幌のまちがより良くなること、そしてこの素晴らしいアセットをどうやって活用していくかということを先生方と一緒に協力して議論させて頂ければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。それではさっそくですけれど、会議の方を進めさせて頂きたいと思います。次第に従いまして、事務局から資料説明をお願いします。

（札幌市　岩田都心まちづくり課長）

ありがとうございます。資料説明の前に連絡させて頂きます。報道各社におかれましては、この後の写真撮影はご遠慮いただきますよう、お願いいたします。また、本日の検討会について、個人に関する情報など非公開情報を除き、会の次第、出席者氏名、発言者等を記載しました議事録を作成し、公表しますので、ご了承頂ければと思います。それでは資料について説明いたします。お手元の A3 判、資料 4 をご覧ください。本日は第 1 回ということで、現状を説明する資料のボリュームが大変多くなってございます。説明時間が長くなり大変恐縮ですがご容赦頂ければと存じます。

それでは 1 ページ目でございます。まずは本方針の策定の進め方とスケジュールをご説明いたします。こちらにございますとおり、本日の第 1 回検討会を皮切りに、全 6 回程度の検討会を開催し、来年度中の策定を目指していきます。また、今年度末までの検討につきましては中間まとめとして公表いたします。

検討の進め方といたしましては、表の左側にあるとおり骨子案の目次を示しつつ、それに対応する内容を各回で示しながら進めてまいります。本日の第 1 回検討会では、「今回」と破線で囲んである部分についてテーマとしていきます。左側の目次に下線をつけている部分です。具体的には、「1　策定の背景と方針の位置づけ」から、「3　ゾーンごとのまちづくりの方向性」のうち、「ゾーンごとのまちづくりの現状」までです。

このように段階的に検討を進め、今年度は、はぐくみの軸全体の将来像、ゾーンごとの将来像までを取りまとめ、それを実現するための施策展開の方向性については、来年度の検討

会で検討していきます。

なお、本日は、特に 28 ページでお示しする「はぐくみの軸の将来像」を中心にご検討いただきたいと存じます。「3　ゾーンごとのまちづくりの方向性」につきましては、次回以降で検討する部分の前提条件として説明いたしますので、これに対してもご意見をいただければと考えております。それでは、「1　策定の背景と方針の位置づけ」の項目に関してご説明していきます。

2 ページをご覧ください。この度、札幌市で、はぐくみの軸強化方針を策定していくこととなった背景についてですが、①にあるとおり、人口減少や超高齢社会の到来、経済縮小や都市の成熟化、脱炭素に向けた世界的な潮流、といった社会情勢の変化、昭和 47 年の札幌オリンピックを契機に建設されたビル等の更新時期の到来、さらには新型コロナウィルス感染症の拡大といった、札幌を取り巻く社会情勢の変化に合わせた都心のまちづくりが必要になっております。また、「はぐくみの軸」は、第 2 次都心まちづくり計画において、東西の骨格軸の一つとして位置付けていますが、その形成に係わるビジョンの検討を、具体的取組として定めているところです。

このような状況の中、折しも札幌は 2022 年に市制施行 100 周年を迎えることから、札幌の街が次の 100 年も魅力と活力を持ち続けていくために、はぐくみの軸の魅力を高めていくことが重要である、と考えております。こういった背景、考え方のもと、都心の東西軸としての魅力を強化していくため、都市の開発気運の高まりに合わせて当該強化方針を策定し、大通公園などの地域特性を生かした沿道のまちづくりを促進していく、そして、札幌市民が世界に誇れる札幌都心を実現し、新たな価値を創造しながら、次の 100 年の魅力と活力を生み出すことを目的として、策定を進めることといたしました。

なお、この方針については、大通沿道のまちづくりに関して、例えば、ビルの高さやセットバックの数値など、個別の数値の基準などは記載しませんが、大通沿道の街並み形成や、公共空間の在り方、さらにはソフト的な取組の推進など、具体的な取組を後押しできるよう、大通沿道のまちづくりの方向性を、定性的な表現で示していきたいと、考えております。

3 ページをご覧ください。当該方針の対象エリアにつきましては、第 2 次都心まちづくり計画に基づき、東西は概ね、大通西 13 丁目から豊平川との接点までの、都心の西端から東端まで、南北は概ね、南 1 条通から北 1 条通までの大通沿道南北 1 ブロックの範囲とします。

4 ページをご覧ください。上位計画との整合、計画期間についてですが、当該方針は、図にございますとおり、現行のまちづくり戦略ビジョンなどを上位計画として策定した、第 2 次都心まちづくり計画の、「都心にかかるエリア別計画」として策定いたします。

また、はぐくみの軸強化方針と同時進行で、第 4 次札幌市みどりの基本計画に基づき、「都心のみどりづくり方針（仮称）」の策定について、別途検討が進んでおります。この「都心のみどりづくり方針」は、都心全体のみどりの創出を目指すものですが、大通公園のみどりづくりや、民間開発と合わせたみどりづくりが、テーマの一つとなっていることから、大通沿道のまちづくり方針である「はぐくみの軸強化方針」も、十分に検討の連携と整合を図っ

ていく必要があります。

なお、大通公園という公園そのものの在り方につきましては、「都心のみどりづくり方針」における検討を前提とすることとし、はぐくみの軸検討会の中では、直接の検討のテーマとして設定することはいたしません。もちろん、委員の皆さまからご意見をいただくことはあるかと思いますので、頂戴したご意見につきましては、検討を進めているみどりの推進部と共有し、双方の方針の整合を図っていきたいと考えております。

また、札幌市の最上位の総合計画である「まちづくり戦略ビジョン」につきましても、現在、並行して、第2次計画の策定作業が進んでいるところです。はぐくみの軸強化方針も、第2次まちづくり戦略ビジョンの社会経済情勢の考察や、理念を共有しながら検討を進める必要がありますので、検討の連携と整合を図っていきます。なお、計画期間につきましては、第2次まちづくり戦略ビジョンが、高齢者人口がピークを迎える2040年代を見据えた内容とすることなどから、本方針の計画期間も策定から 20 年としたいと考えております。

5ページをご覧ください。こちらは、はぐくみの軸強化方針の構成図になります。第2章の部分で、歴史的背景、現状・課題、まちづくりの動向などから、軸全体の沿道まちづくりの理念と将来像を描き、これを踏まえ、ゾーン別のまちづくりの方向性を定め、それを実現するための土地利用、景観といった分野別の施策展開の方向性を定めていく構造を考えております。

続いて、目次「2　沿道まちづくりの理念と将来像」に関する項目について、ご説明していきます。6ページは大通の歴史について、時代ごとに簡単に整理した資料になります。

大通は、元々は「市街地の官民分離」や「火除地」等を目的とした広幅員道路として、明治4年に設置され、明治中頃に公園としての整備が進み、現在の大通公園の基礎ができ、札幌に逍遥文化が生まれました。続いて、大正から終戦までの間には、1927 年（昭和2年）に市電が開業するなど、社会の近代化を背景に、沿道における都市機能の集積が進みました。終戦以降は、1950 年（昭和 25 年）に第1回札幌雪まつりが開催されるなど、大通公園のイベント利用が徐々に始まりました。また、1972 年（昭和 47 年）に札幌冬季オリンピックが開催され、同時期に地下鉄や地下街が整備されるなど、急速な都市基盤整備が進み、人口の急拡大が進んだ時期でもあります。平成以降は、2011 年（平成 23 年）に札幌駅前通地下歩行空間が開業するなど、都市の成熟化が進みました。また、さっぽろ創世スクエアがしゅん工するなど、はぐくみの軸沿道の機能更新の動きが出始めておりますが、今後は人口の減少が見込まれ、大通を取り巻く環境は新たな局面を迎えております。こういった歴史的経緯をたどりますと、大通は「時代に合わせて姿を変えながら、札幌を支える基盤としての役割を果たしてきたレガシー」と言えます。

7ページをご覧ください。ここからは、はぐくみの軸と上位計画等との関係を整理し、そこからはぐくみの軸強化の必要性や、配慮すべき視点をご説明していきます。まず、大通については、2000 年に策定された第4次札幌市長期総合計画で、都心のまちづくりの骨格構造の一つとして定めました。その後、2002 年の都心まちづくり計画で「はぐくみの軸」と

名称を定め、さらに 2010 年のさっぽろ都心まちづくり戦略、2016 年の第 2 次都心まちづくり計画へと考え方を継承し、現在に至っております。

それでは第２次都心まちづくり計画における、はぐくみの軸の関連部分をご説明します。左側下段の赤囲み部分をご覧ください。当該部分は第 2 次都心まちづくり計画の、はぐくみの軸に関する記述の抜粋です。展開指針の中に「沿道の特性に応じたみどりの空間と、活用空間のメリハリある空間の創出」「沿道空間と一体となった、パブリックスペースとしての大通の実現」「都心東西のエリアをつなぐ、札幌の都市文化、価値を体感できる空間の創出」「創成川以西のにぎわいを、創成川以東まで波及させる連続性のある空間形成」を掲げており、強化方針を検討していくに当たっても、ベースとなる考え方となっております。また、第２次都心まちづくり計画では、左上の図のとおり、はぐくみの軸は、他の骨格軸と交差しているほか、計画上の交流拠点や複数のターゲットエリアにまたがっていることから、これを意識する必要があります。

8 ページをご覧ください。こちらでは、関連する計画との関係性をお示ししております。まず札幌市総合交通計画は、都市の将来交通に対する基本的な考え方などをまとめたものですが、その中の都心に関する施策として、「人を中心とした安全で快適な交通環境の形成」が掲げられており、また、回遊性向上、自転車利用環境の創出、都心への不要な自動車流入の抑制など、重要な観点が示されております。次に都心エネルギーマスタープランは、第２次都心まちづくり計画と一体的に展開する環境エネルギー施策の指針ですが、この中で、取組の基本方針として、「低炭素」「強靭」「健康・快適」といった観点が示されており、環境エネルギーの視点も重要となっております。また、札幌市景観計画に基づき、大通地区は景観計画重点区域に指定されており、景観への配慮も必要となっているエリアとなっております。

9 ページをご覧ください。こちらでは地区計画と、沿道で進む地域主体のまちづくりの動向について示しております。ご覧のとおり図中央に示している大通・創世交流拠点では、複数の地区計画がかかっているほか、色付きの線で示している地域主体のまちづくりの動きも活発となっており、はぐくみの軸の中でも開発が先行しているエリアになっております。一方、大通公園の西側では、地区計画の設定や地域主体のまちづくりの動きはありません。このように地区計画や地域主体のまちづくりの動きといった観点からも、沿道で特性が異なっていることを意識していく必要があります。

10 ページをご覧ください。こちらでは並行して策定中の行政計画との関係を示しております。まず、第 2 次札幌市まちづくり戦略ビジョンにつきましては、札幌市における最上位の総合計画ですので、はぐくみの軸強化方針も、社会情勢の考察や、策定に当たっての基本的な視点などを共有しながら、検討を進める必要があります。例えば、左側中段にある計画期間の欄の「高齢者人口がピークを迎える 2040 年代を見据えた上で策定」という部分や、その下の「昨今の社会経済情勢からの考察」、さらにその下の「基本目標の設定の考え方」で示す「ユニバーサル、ウェルネス、スマート」といった考え方など、検討の視点を共有し

ていく必要があります。

11 ページをご覧ください。こちらは同じく並行して策定中の、都心のみどりづくり方針についてです。左下の全体概要の図にございますとおり、「都心の魅力を高めるみどりの創出」「みどりのネットワークの形成」を基本目標に掲げ、「公共空間の整備・改善によるみどり豊かな空間形成」や「民間開発等と連携したみどりの創出」などを基本方針として定める予定です。また、今後、都心のみどりづくり方針の策定過程においては、大通公園の在り方についても検討される予定であることから、都心のみどりづくり方針における検討内容を前提としながら、沿道のまちづくりの在り方を検討していく必要があります。

12 ページをご覧ください。ここからは、はぐくみの軸を取り巻く現状・課題についてご説明いたします。沿道建物の更新時期についてですが、①―１のとおり、今後 10 年間で鉄筋コンクリート造建築物の耐用年限と考えられる建築後 40～50 年を迎える建物が多く、既に耐用年限を超えている建築物や、近い間に耐用年限を超える建物を合わせると、全体の６割を占めております。周辺の開発動向についてですが、①―２のとおり、大通・創世交流拠点周辺では、容積率緩和の適用を受けた開発が進んでおります。また、都心全体で見ると、札幌駅交流拠点、東４丁目通、都心アクセス道路の整備などが進んでおり、今後、都心全体で機能更新が進んでいく状況となっております。

13 ページ②-1 では、沿道建物の主な用途別の分布を示しています。創成川以西は主にオフィスなど業務施設が多く集積しており、西側に行くにつれて公共施設や文化施設、住宅が見られるようになります。一方で創成川以東については、共同住宅が多く分布しているのが分かります。②-2 では、建物の実容積率の分布を示しています。大通と駅前通の交差点に、特に容積率の高い建築物が集積しているのが分かります。

14 ページ③-1 では延床面積別でオフィスの分布を示しています。大規模なオフィスは大通と駅前通の交差点近辺を中心に集積していることが分かります。③-2 では延床面積別で商業施設の分布を示しています。大規模な商業施設は、大通と駅前通の交差点の南側近辺を中心に集積していることが分かります。

15 ページ④は、特に共同住宅と保育施設に着目し、約 25 年前と現在の比較をしたものです。ご覧の通り、対象エリア内では、共同住宅棟数が 62 棟から 110 棟と約 1.8 倍に増加しており、また、保育施設については、３件から 12 件と９件増加しております。これを見ると、創成川以東や大通公園西側を中心に居住が進み、またこれと重なるように保育施設が増加していることが分かります。

16 ページ⑤では地下歩行ネットワークの現状を示しておりますが、地下街や地下鉄コンコース等が整備され、地上－地下の回遊性が高いエリアとなっております。⑥では、大通公園周辺の自動車交通量を示しております。調査年次がずれておりますが、大通公園沿道では、南北、東西方向ともに、概ね自動車交通量は減少傾向であることが見受けられます。

17 ページ⑦では、地価の水準を示しております。特色の異なる複数のエリアにまたがっている性質上、平米当たりの地価にばらつきがあります。⑧では、地下鉄駅の出入口、市電

の停車場へのアクセス性を示しておりますが、それぞれから徒歩 5 分の同心円を描くと、ほぼ当該エリアがカバーされており、エリア全体で公共交通への高いアクセス性があることが分かります。

18 ページ⑨-1 では、風致地区について記載しております。左の図のとおり、当該エリアの一部は「大通風致地区」に指定されており、その沿道は右の表の「第四種」の規制がかかります。しかし、右下「風致地区内の行為等に関する審査基準」（1）で記載しているとおり、「高さ、建ぺい率、後退距離」については適用除外になっているほか、緑化率についても緩和されている状況です。

19 ページ⑨-2 では、創成川以西のエリアが景観計画重点区域に指定されていることを示しております。当該区域内における新築、増築などの行為は市へ届出が必要となり、右の図で示す景観形成基準を順守する必要があります。

20 ページ⑩は、大通公園の概要を示した図です。大通公園は現在、ここにお示ししているとおりのゾーン分けをして、整備されております。なお、1993 年にはイサム・ノグチの作品「ブラック 7 スライドマントラ」が 8 丁目と 9 丁目の間の道路に設置され、大通公園が一部連続化されております。

21 ページ⑪は、テレビ塔から大倉山のジャンプ台やその背後の山々を眺めることができ、都心にいながらにして自然や解放感を感じることができるなど、テレビ塔からの景観が、札幌の都市資源の一つになっていることを示しております。⑫は、大通公園に対する市民・観光客の認識を示したものです。まず市民アンケート調査の結果によると、札幌市民にとって、大通公園はもっともよく利用する公園であると言えますが、利用目的としてはイベントが 55.2%となっており、多様な公園の魅力が市民に十分認識されているとは言えない状況が見て取れます。一方、観光客の声ですが、観光目的で来札した道外在住者に対する調査において、大通公園が、「訪問した場所」「観光スポットのうち札幌と聞いて思い浮かぶ言葉」の項目で第 2 位となっており、観光スポットとして定着していることが分かります。

22 ページ⑬では、緑被率を示しております。当該エリアは大通公園が立地しているので、エリア全体では緑被率が 18.42%となっておりますが、大通公園や街路樹を除くと 4.57%にとどまり、沿道空間においては緑が不足している現状があります。⑭では、①、②の写真のように、大通公園の沿道では、公園と一体となった活用は少なく、沿道と公園の機能的な連続性は見られない状況です。また、③、④の写真のように、沿道側から大通公園を眺めた場合、公園施設の裏側が見え、自転車が目立つ、さらには⑤、⑥の写真のように自転車通行空間を路上駐車がふさいでいるなど、沿道と公園の一体感が欠けることが課題となっております。

23 ページをご覧ください。ここからは札幌を取り巻く社会経済情勢の変化と、それを踏まえて参考になる国内外のまちづくりの動向をお示しし、検討に当たって必要となる視点をご説明していきます。まずは人口減少など社会構造変化への対応といったことに関しての動向ですが、①のとおり、札幌市においても今後、人口が減少していく見込みであり、総

人口の減少比率よりも生産年齢人口の減少比率が上回る見通しであることから、より高齢社会化が進展していきます。また、その下の図のとおり、20～29 歳の若者は大幅な道外転出超過になっており、その主な理由は「就職」となっているので、「働き続けられる環境」を作ることが求められております。こういったことから、第 2 期さっぽろ未来創生プランでは、「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」を目指すこととしています。

また、②の部分のとおり、国交省の「都市政策の在り方検討会」の資料では、新型コロナウィルス感染症の拡大を受け、「暮らしの質」に力点を置いた居住地の選択指向が高まり、地方移住への関心が高まっていることが示されております。また、札幌市では③のとおりスタートアップシティ札幌プロジェクトを展開し、スタートアップエコシステムの構築を目指していることころです。国内外のまちづくりの事例を見ていくと、福岡市やフィンランドのヘルシンキでは、人材を引きつける施策、まちづくりからスタートアップ文化を生み出す取組が進められております。はぐくみの軸沿道のまちづくりにおいても、社会構造の変化に対応するべく、「人をひきつけ、住み続けたくなる魅力」を、都心で創出していく必要があると言えます。

働く場所に求められる価値観の変化に関する動向です。24 ページ①のとおり、札幌市では都心の開発誘導方針などにより開発事業を誘導しておりますが、今後も社会構造の変化に合わせた誘導が必要です。これに関する国内外のまちづくりの事例を見ていくと、東京では「CASBEE スマートウェルネスオフィス認証」など、働く人の健康に着目した開発によりブランディングを図ったり、ロンドンでは、新たな人材の獲得に向けて、ワーカーの生活の質に着目した開発が行われるなど、オフォス環境に求められる価値が、ウェルネスといった新しい価値に変化してきております。こういった開発動向の変化に、札幌市としても柔軟に対応していく視点が必要です。②は民間不動産会社が実施した、新型コロナウィルス感染症の拡大に伴う就業者意識の変化にかかるアンケートですが、この調査をはじめとして、新型コロナウィルス感染症に伴う、働く環境に関するアンケートでは、「屋外空間の価値向上」がワーカーの求める環境として挙げられており、はぐくみの軸においては、大通公園を生かしていくことでエリアの価値を高められる可能性があります。これに関するまちづくりの事例を見ていくと、公園や公開空地などのオープンスペースを活用する取組や、みどりづくりをコンセプトにした開発などの事例が見られます。こういった動向を踏まえますと、「多様なライフスタイルやニーズに対応した開発の誘導や、都市空間の活用が求められている」と言えます。

続きまして、まちづくりに求められる視点の変化についてです。25 ページ①のとおり、国交省では、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成が、「イノベーションの創出」や「人間中心の豊かな生活の実現」につながるとして、いわゆる「ウォーカブル」な都市づくりを進めているところです。これに関する国内外のまちづくりの事例を見ていくと、パリではオリンピックが開催される 2024 年までに、誰もが車に乗らず 15 分であらゆる街の機能にアクセスできる都市を目指しており、多くの広場が歩行者優先の空間となっていく予定

です。また、ポートランド、メルボルンでも「20 分の近隣」という考えに基づき、歩いて快適に暮らせる人中心のまちづくりが進められています。また、②のとおり、国交省では「まちなかの居心地の良さを測る指標」を作り、地方自治体の「ウォーカブル」な都市づくりの後押しをしています。また、下にあるとおり、ＮＹでは低未利用の駐車場を活用したり、市内に 2,000 以上のベンチを設置するなどし、沿道の活力を生み出す取組を行っています。こうした動向を踏まえ、「居心地が良く歩きたくなるまちとして、ウォーカブルな都市づくりが求められている」と言えます。

続きましては、オープンスペースの価値に関してです。26 ページ①は先ほど申しました、公園に関する札幌市が実施した市民アンケートですが、よく利用した公園として大通公園が挙げられている一方で、利用目的としてはイベント利用が多くを占めており、イベント以外での魅力が市民に十分認識されているとは言い難い状況です。これに関するまちづくりの事例を見ていくと、ニューヨークの、廃線となった貨物鉄道の高架部分を再整備した公園の「ハイライン」では、公園整備と合わせた周辺の開発誘導により、民間投資と雇用の創出、さらには地価上昇に伴う固定資産税の増加といった波及効果を生み出しており、現在では、メトロポリタン美術館や自由の女神と並ぶニューヨーク市の主要観光施設となっております。このように、公園の魅力を生かして沿道と一体になったまちづくりを進めることにより、様々な波及効果を生むことができるという例といえます。

②については、国交省のアンケート調査の結果ですが、ワーカーのみならず生活者目線でも、「公園、広場、テラスなどゆとりのある屋外空間の充実」が重視されております。これに関するまちづくりの事例を見ていくと、大阪や東京でも公園を中心としたまちづくりの構想が進んでおり、先ほどのハイラインもそうですが、公園やみどりを活かしたまちづくりで、まちの魅力を高めていくという事例が増えてきています。こうした動向を踏まえ、「大通公園をはじめとしたみどりの価値を再定義し、都心のブランディングを図る」という視点が重要となります。

続いて、環境や防災に関する動向です。27 ページ③については、2008 年に札幌市は環境首都を宣言し、先ほどもご説明したとおり、都心エネルギーマスタープランで「低炭素」「強靭」「快適・健康」を取組の基本方針として掲げ、環境を重視したまちづくりを推進しています。④については、災害に関するリスクを示したものですが、札幌においても北海道胆振東部地震の際にブラックアウトを経験し、また、はぐくみの軸沿道は豊平川が洪水となった場合の浸水想定区域に位置するなど、都心でも強靭化に向けた取組が必要となっております。下段で示すとおり、脱炭素化への取り組みが世界的に進んでいることや、防災機能を高めるなどして都市のブランディングに繋げている事例があり、みどりを環境施策や防災に生かしていくという観点からも、「大通公園をはじめとしたみどりの価値を再定義することで、都心のブランディングを図っていく必要」があります。

28 ページをご覧ください。このページでは、ここまでご説明した歴史、現状・課題、まちづくりの動向、行政計画との関係から導き出したキーワードを踏まえ、「はぐくみの軸沿

道のまちづくりの理念」「大通沿道の将来像」「はぐくみの軸の今後を検討する上で特に重視すべき価値観」を設定していきたいと思います。

まず、はぐくみの軸沿道のまちづくりの理念について、「150 年で育まれたレガシーの価値を再認識し、100 年先の未来を"はぐくむ"」といたします。ここには、札幌の都市づくりを支えてきた大通の歴史性と、その価値を、市民・行政ともに再認識し、さらにその価値を高め、100 年先につながる魅力と活力をはぐくんでいく、という思いを込めました。

続いて、左側に列挙しているキーワードに基づき、「大通公園をはじめとした、はぐくみの軸ならではの資源を最大限に活かしていく」という観点を持ち、大通沿道の将来像を描いていきます。将来像としては、「大通と沿道が一体となって都市機能や景観が形成され、パブリックスペースの多様な活用などにより活力が生み出されている。」「大通全体が、全ての人にとって訪れやすく、多様な過ごし方ができる快適な空間となっている。」「魅力的な環境が多様な人材をひきつけて更なる交流が生まれ、新たな価値を創出している。」「札幌市民が、大通公園を世界に誇れる公園として親しみを持って憩っている。」「環境にやさしいまちづくりが世界からの投資を呼び込んでいる。」「様々な災害に対して強靭なまちが実現している。」という姿を設定したいと思います。

また、はぐくみの軸の今後を検討する上で、特に重視すべき価値観として、3 つのカテゴリの価値観を設定いたします。まず「シビックプライド／シティブランド」ですが、これまで札幌の都市づくりを支えてきた大通の歴史性に鑑み、北海道・札幌の 100 年先のライフスタイルをはぐくんでいきたい、という観点から設定しました。続いて、「ウェルネス・ユニバーサル・スマート／ウォーカブル」ですが、第 2 次まちづくり戦略ビジョンで「ウェルネス・ユニバーサル・スマート」を重要概念として掲げていること、ウェルネス・ウォーカブルに着目したまちづくりの動向を踏まえ、誰もが健康に札幌都心を楽しめる環境をはぐくむ、という観点で設定しました。

最後に「グリーン／レジリエンス」ですが、大通が元々火除地であった経緯、屋外空間の価値が高まっていること、環境配慮や防災・強靭に向けた取組がますます重要になってきている潮流を踏まえ、「次世代に受け継ぐグリーンインフラ」をはぐくんでいきたい、という観点から設定しました。来年度検討していく施策の方向性につきましても、これらの理念、将来像、価値観を踏まえながら、検討していきたいと考えております。

29 ページをご覧ください。こちらは、さきほどの将来像を実現するため、取組を検討していく分野と、分野ごとに目指すべきまちづくりの方向性を整理したものです。こちらのはぐくみの軸全体にかかる分野別の施策展開の方向性は、来年度の検討会で検討していくこととしておりますが、将来像と施策展開をある程度セットでお示しした方がイメージしやすいかと思い、第 1 回検討会から委員の皆さまに例示としてお示しするものです。

まず、現状・課題分析やまちづくりの動向などから、「土地利用」「景観」「交通」「エネルギー・強靭・防災」「みどり・公園」「マネジメント」という 6 つの分野を設定します。例えば、「土地利用」ですが、「沿道の特性に応じた機能導入と、メリハリある空間活用の促進」

「公園などのパブリックスペースと沿道空間が一体となった機能的連携の促進」というような方向性を示します。このように、まずは、総論的にはぐくみの軸全体にかかる施策展開の方向性を定め、これを踏まえて、ゾーンごとで目指す、各論的な施策展開の方向性を検討していきたいと考えています。

30 ページをご覧ください。ここからは沿道の特性に応じた、まちづくりの方向性を検討していくための前提となる現状や課題を整理する部分です。「ゾーンごとのまちづくりの強化コンセプト／将来像」につきましては、今回、現状のみをお示しし、委員の皆さまから、不足する観点やご意見を頂いた上で、次回以降、それに基づき強みや課題を整理して、強化コンセプト／将来像の案をお示ししたいと思います。まずゾーン分けの考え方ですが、右下囲みのとおり、現状の沿道施設の立地状況や、第 2 次都心まちづくり計画の考え方などから、ゾーン分けを行いました。西側から、石山通付近より西側の西 C ゾーン。石山通付近から概ね西 5 丁目付近までの西 B ゾーン。西 5 丁目付近から創成川通付近までの西 A ゾーン。創成川通付近から東 4 丁目通付近までの東 A ゾーン。最後に東 4 丁目通付近より東側の東 B ゾーンです。それではゾーンごとの現状について、簡単にご説明いたします。

31 ページをご覧ください。まず西 A ゾーンです。左側中段の地図のとおり、様々な企業の本店、本社のほか、行政機関、商業施設が集積しており、都心の中でも、ビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的役割を担っているゾーンです。中段中央のとおり、第 2 次都心まちづくり計画上も、大通・創世交流拠点に位置付けられているほか、地区計画が設定され建物の更新が進んできています。また、観光スポットとなっている大通公園西 3 丁目や、ランドマークのテレビ塔があり、札幌観光のシンボルとなっているゾーンです。さらに、チカホやポールタウン等が地下に展開し、高い地上・地下の回遊性を有しております。

32 ページは、石山通付近から概ね西 5 丁目付近までの西 B ゾーンです。上段断面図のとおり大通公園内にブラックスライドマントラが設置され連続化されている、西 8 ～ 9 丁目が含まれております。左側中段の地図をご覧ください。共同住宅、宿泊施設、教育施設、保育園といった多様な施設・用途が混在していることが分かります。また、街区単位で土地利用がされていない、敷地単位の個別利用が大半を占めております。右側をご覧ください。大通公園内は「つどい」をテーマにし、「遊び・イベントゾーン」として子ども連れの方が集まっているほか、周辺の教育施設の若い世代が集まって交流する姿が見られます。また、既に西 8 ～ 9 丁目が連続化されており、一体的な公園空間が広がっています。右側、下の図は、近辺の世帯数の増加を示しています。集計範囲がはぐくみの軸沿道よりも大きいですが、15 ページでご説明した共同住宅や保育施設の増加も含めて考えると、はぐくみの軸沿道で居住人口と年少人口が増加していることが伺えます。

次は 33 ページ、石山通付近より西側の西 C ゾーンです。左側中段の地図をご覧ください。文化芸術施設や札幌市資料館といった歴史資源のほか、ホール、ホテル等の集客交流施設が立地していることが分かります。また、地下鉄西 11 丁目駅、市電中央区役所前停留場、複数のバス停留所があり、交通の利便性が高いゾーンです。こういった地域特性を踏まえ、

第 2 次都心まちづくり計画でも、「大通公園西周辺エリア」に位置付けられ、集客交流機能の強化や、文化芸術・歴史資源の都市観光等への活用が掲げられております。右側の囲みですが、大通公園内は、西 13 丁目がサンクガーデンとなっており、資料館を背景に美しい空間となっております。その下は、施設の集積状況を示したものですが、知事公館といったみどりの空間が付近にあることも特色の一つです。

34 ページは創成川通付近から東 4 丁目通・いとなみの軸付近までの東 A ゾーンです。道路断面は、創成川以西と異なり、大通公園ではなく、中央分離帯を挟んだ片側 3 車線の道路となっております。左側中段の地図をご覧ください。こちらのゾーンは、大通と創成川の交点に位置し、バスセンター、地下鉄バスセンター前駅が立地しているほか、大通駅とバスセンター前駅を結ぶ地下鉄コンコースが整備され、交通結節点となっているゾーンです。第 2 次都心まちづくり計画でも、大通・創世交流拠点の東端に位置し、創成川の東西をつなぐゲート空間としての整備などを目指しています。その右側ですが、創成川通アンダーパス連続化事業により地上部に、創成川公園や、東西市街地を繋ぐ道路が整備され、創成川の西から東への人の流れを創出する基盤となっております。また地域内の神社では、境内で地域活動が行われているほか、近傍には二条市場といった地域資源があります。

35 ページをご覧ください。最後に、東 4 丁目通、いとなみの軸付近より東側の東 B ゾーンです。道路断面は東 A ゾーンと同様です。左側中段の地図をご覧ください。薄いオレンジ色が共同住宅となっており、都心居住の受け皿となっています。また、薄いグレーの青空駐車場も多く、低未利用地が多数見受けられます。公園については、はぐくみの軸内に「あそぶべ公園」という公園が 1 つありますが、その他の公園は地図の枠外、少し離れたところにもう一か所あるのみで、公園が少なく、パブリックスペースや緑が不足しているゾーンとなっています。第 2 次都心まちづくり計画では、創成東地区に位置付けられ、食・住・遊近接のまちづくりや、エリアマネジメント活動を通じたエリア価値の向上を目指しております。こうした考えと連動して、東 4 丁目通の整備が予定されており、現在の 4 車線が 2 車線に削減されて歩道空間が拡幅され、歩行環境の向上が図られ、その歩行空間を生かした地域活動の活性化も期待されるところです。右下には、はぐくみの軸近隣に、サッポロファクトリーや旧永山邸などの歴史資源が立地しているといった、特徴を示す写真を掲載しています。ご説明は以上になります。

（村木座長）

事務局からは本日は 28 ページの大通沿道の将来像について議論して頂きたいというような説明がありました。この将来像を描くために不足している視点がないか、札幌市の描いた将来像に対する意見、将来像を実現するために必要な取組の方向性などについて、29 ページまでの事務局からの説明についてご意見ご質問があればお伺いしたいと思います。

（石塚委員）

100 年先の未来をはぐくむという大きな課題を頂いていますけれども、そういう将来像を議論する際に、現状から課題を分析してまちづくりの方向性を検討していく現状トレンド型の検討ではちょっと不足はないかな、という気がいたします。

参考にすべきまちづくりの動向という 4 つの視点、これを実現するうえで、どういう問題があるのか、どこに課題があるのかという視点から現状を抽出し課題を分析していく必要があると思います。今回示された現状・課題は不足する部分があるという認識でございます。

1 点目は開発動向に関して、問題は大通以北に開発の重点が置かれていて、大通から南がその流れから少し取り残されている。どうやって南北の開発を一体的に進め、回遊性を生むか、そういった視点が重要なんじゃないのかなという気がします。機能に関して色々分析されていましたが、大通公園と沿道の関係性を強化するという視点から低層部の要素というのはもっときめ細かく見ていく必要があるんじゃないかなという気がいたしました。

歩行者ネットワークとして地上地下の回遊性が高いという現状分析がありましたが、札幌駅前通の地域議論を見ていても、地下優先になってしまって、地上地下の回遊性をどうやって図るか、というところが大きな課題となっています。それを実現するために建物の中にアトリウム空間を設けて地上と地下をつなぐ、という努力をされているが、大通沿道においても同じことが言えるのではないか。最初から地上地下の回遊性が確保されているというよりも、それをどう高めていくかという方が課題なのではないかという認識です。

自動車交通量の問題についても数字が示されたが、これは大通の連続性を高めていく、あるいは沿道との関係性を高めていくうえで、この自動車交通をどのようにコントロールできるか、という議論が重要なんじゃないかな、という気がしています。ここで示された数字が、例えば東西方向で一車線車道を減らすことができるキャパシティなのか、あるいは南北の道を封鎖して大通公園を連続させる可能性があるのかどうか、そういった観点からの議論ができるような資料が必要なんじゃないかという気がいたしました。

景観の面について、心地よい景観を作っていくことは非常に重要なんですが、景観に関する規制として風致地区とか景観計画等が述べられていましたけれども、全体のランドスケープを見ると気になるのは屋外広告物が相変わらず大通公園のところは問題なのかなと思うんですが、景観保全型広告整備地区というのを札幌市は指定できるようになっているんですけれども、駅前通・札幌駅周辺は指定されている一方で、大通は無指定という現状です。これをどう捉えていくか、ということも検討できるベースが必要なのではという気がいたします。街並みについて、低層部の設えがどうなのかということもきちっと分析していく必要があるのかなと。

それから、高さですね。建物高さについて、今回は高さの数値を謳うわけではないという話だが、以前大通交流拠点のガイドラインを検討した際に、高さ 31m という今の高さはちょうど大通公園に日影を落とさない絶妙な高さであるということがわかってきました。また沿道 60m までがギリギリの高さで、それを超えると大通公園に日が落ちなくなるのでは、

という話が出ました。公園の快適性を担保する上での建物高さのあり方が現状どうなのか、それから将来どうあるべきかという議論や、議論のベースとなる情報が必要なのではないか、と思います。

緑被率について、みどりも重要だが、重要なのはオープンスペースだと思います。オープンスペースも単に公開空地があるということではなく、活用できるオープンスペースがどこにどのようにあるのかといった観点がとても重要になるんではないかなという気がしています。本来は都心のみどりづくり方針の方で検討すべきことなのかもしれませんが、この広大なオープンスペースをどのように活用していくのか、色々なイベントが行われているが、シビックプライドということを考えれば、本当に市民が自分たちの空間としてどう活用できるのか、といった方向性も重要になるんじゃないか、今あるイベントというのをきっちり分析し、本当にシビックプライドにつながっているのかという議論も必要なんじゃないのか、という気がします。

それから札幌ならでは、という観点で、冬のことを除外して語れない部分があると思います。以前だとハンディだという話になるわけですけれど、地球環境問題などグローバルで考えたとき、この冬の資源というものをどう今後のまちづくりにつなげていくかというのが大きな視点として残るんじゃないのかな、という気がしています。大通公園のあり方についても、都心に水や土、植物といった自然生態系をどのように持ち込んで快適な空間を作っていくのかということは、都心の環境を心地よくしていくうえで、見た目での緑が多いということだけではなく、気温や湿度、風とか言った点も含めて、この人工的な都心の中で快適な空間を大通公園周辺がどう作っていけるのかということが大きなテーマになるのかな、という気がしています。

また今回は大通公園から一街区分が検討対象エリアになっているが、大通公園から周辺に滲み出して色々な資源をつないでいくことの重要性があるんじゃないかなと思っています。植物園、道庁、時計台、様々な資源が大通公園周辺に歴史的レガシーとして点在しています。それらと大通公園がどのようなネットワークを作って、単なる歩行者空間というだけではなく、景観面でも拡がりのある環境を作っていくのか、というのが大きなテーマになるんじゃないかな、という気がしています。

色々お話ししたが、最初にお話しした 100 年先の未来をはぐくむというテーマ自体が非常に荷が重たいテーマというか、100 年先なんて誰も語れないという状況じゃないかなと思います。本当に変化のスピードはものすごく早く、2、3 年前コロナでこんな社会生活を送るなんて誰も思っていなかったわけで、安定した成熟社会と言いながらこれだけ不確実性に満ちた社会が到来するとは思っていませんでした。そういうことから考えると、100 年先を考えて、どういう姿であるべきかというのを固定的に考えるのではなくて、そういう変化にも柔軟に都市がどのように対応していけるのか、そういう柔軟性を大通公園がどのように担保していくのか、という視点がとても重要になるんじゃないかなという気がしています。

あと一点だけ、重視すべき価値観、キーワードになるが、全部横文字というのは抵抗があって。こういう議論をしていくうえで重要なのは、将来に向けて市民の皆さんと理解・共感を得るビジョンを作っていくことであって、そのうえでの投げかけが全部横文字、というのは違和感があります。もっと平易な言葉でわかりやすく伝えることが重要なのではないかな、という気がいたしました。

（村木座長）

ありがとうございました。かなり多くのキーワードをご指摘頂いたかなと思います。特に地上と地下の回遊性、南北の回遊性、地上と地下というのは冬という季節の関係性もすごくあるキーワードだと思いますし、景観とか大通からの滲み出し、低層部のしつらえ、これはしつらえと用途というのもすごく関係すると思います。どんな店舗があってどんな使い方をされているのか。あとは高さ、公園との日影の関係など多くのご指摘を頂いたと思います。それと自動車ですね。色々なキーワードを頂いたと思いますが、他の方いかがでしょうか。

（岡本委員）

ほとんど話されたって感じですけど、そんな中でもちょっと僕が気になっていたのは、冒頭におっしゃられた 100 年先をというところで、現状から積み上げるのではなくてというのは僕もすごく思っていたので、とても共感しました。

僕がお伝えしたいのは、今回はぐくみの軸を出していますけれども、もっと広い東西に長いものとして考えて、その中のたまたまこの範囲だという見方をしないときっとまずいのではないかと思っています。都市の骨格軸として、都心部の中、ダイヤ型の中での東から西までという形ですが、この奥には山並みが見えたり緑の連続感を感じたりしますので、全体の東西の開けた中での一部に注目する場合に、そこでどういう方向性が必要なのかという見方をしていきたいと思っています。

西の方に目を移すと、中央区役所が建替えになるとか、東の方に行くとニトリさんが美術館みたいなものの企画ができるようなものを建てる、みたいな話も出ていたような気がするので、どういう変化が今後訪れていくのかというのもいくつか見ながら、さすがに 100 年先の話には遠いのかもしれないですけれども、これから数 10 年の間にどういう変化がありそうなのかは、ある程度捉えられるとも思いますので、動いている事業、関連するもの、については、ぜひ拾って見えやすいようにしていただきたいと思います。

それを考えていくと、大通公園、はぐくみの軸についてお話をしていますが、はぐくみの軸という領域にどこからアクセスしてくるのかも大切だと思っています。東側であればマンションが増えてきて、居住者が増えて徒歩で訪れているかもしれないですし、まちに遊びに来る人は地下鉄で訪れるかもしれないですし、どうしても西側の方は手薄な状況でまちづくりが進んでいない感じですが、西側はバスがメインだったり、路面電車だったりで訪れるような形になってくるかなと思うので、はぐくみの軸のあり方を検討するうえで、はぐく

みの軸にどこからどういう手段で人が集まってこられるかという、外から受けいれる方向のベクトルも同時に見ておく必要があると思ったのでお伝えしておきたいと思います。

（村木座長）

ありがとうございました。この軸上に一体どんな景観があるのかという遠くまで入れた視点、それからアクセス、こういったところが今のご指摘にあったと思います。他にいかがでしょうか。

（高野委員）

高野ですが、軸ということで道路軸とか都市軸ということでいろんな軸の議論をすると、国交省的にはコンパクトプラスネットワークとか。わかりにくい表現ですけれども、お団子と串みたいな。私は室蘭やきとりというのが一番重要じゃないかと思っているのは、あれは色々な、豚肉、玉ねぎとかが一つの軸にすると、なぜか焼き鳥というんですよね。一つの性格をもっているわけです、軸として。一本、二本、こういう単位をもって色々な具材がつながるということで。室蘭焼き鳥みたいな名前がついちゃうのですね。そういうのが軸としても、ある意味非常に重要な部分でそういう意味ではぐくみの軸を見たときに、大通公園という軸線がありますし。

それから地下通路は実は意外に東の方にすごく伸びていて。これが残念ながらそんなに、活用されていないわけじゃないのだけれど、チカホのように多くの人が行きかうという状況になってないし、地下通路と近いことによって、建物の新設がなされるというわけでもない。インフラがすごく先行投資的に地下通路があるのだという点で。まず軸議論から言うと、今回の資料の中に人の通行量なんかも出されていないので、そういう意味でも、車が減っているのは多分業務交通が減っているからだと思うんですよね、平日のデータなので。人の往来、そういったもの、インフラに比べてあまり通ってない場所、インフラがなくても人が通っている場所という、それぞれの間を行きかうものというものも、やはり見ていかなくちゃいけないのではないかなと思っていまして。

それらを考えていくと、大前提としてもっと根本に立ち返っちゃうんですけれども、札幌市民はこの長い 2.数キロのものを軸として認識しようとしているのかどうか。南北軸は明らかに軸として皆認識しているんですけれど。札幌駅から中島公園まで、ものすごく人の通行量があり、強烈な軸性を持っている。でもこの長い長いはぐくみの軸を本当に軸として意識しているのか。何とか計画において位置付けられているからということだけではなくて、やはり市民意識の面も少し振り返って、これを軸として現状としてどのくらい意識し、ということから始めなくちゃいけないんじゃないかなという感じもしていまして、軸議論を始めたんです。

そういうこともあり、今の民間の状況とか、建物の状況については色々出ているんですけれども、軸の議論をするためには、そういった点をもう少しデータとして補強して頂いて、軸

として最終的にはやはり市民の皆さんに意識してもらう、一つの人格のあるものとして理解してもらう、ということが目標なのではないかな、と思うので。そういう風な検討もお願いしたい、検討をやっていかなくちゃいけないな、という風に思っています。

（村木座長）
ありがとうございました。最後の計画での位置づけではなくて実際みんながそれを認識しているのかというのはとても大事なご指摘だと思います。これはやはり、人流データとかで見ると、かなりのその辺りもわかるのかもしれないなと思いました。他にいかがでしょうか。

（森委員）
よろしくおねがいいたします。私も岡本先生、高野先生の公共交通と大通との関係のことが一番先に頭に浮かびました。
100m 道路に公園を乗っけるという特異な形の中で、大通公園は私にとっては公園というより交通結節点的な存在であって、駐輪場もありますし、地下鉄の入り口もありますし、路面電車も並行に走っているのでそことの縦の軸のつながりっていうのは今一度考え直した方がいいのではないかと思いました。ウォーカブルというような流行りの言葉が出てきておりますけれども、やはりこういったところで車の台数が減っているというような話もありましたけれども、これから建物更新をする中で本当に附置義務の駐車台数が都心にいるのかという議論も一緒にしていったほうがいいんじゃないかなと思いました。
あと２点ございます。一つ目は景観です。風致地区の第 4 種のところでいろいろな基準が除外されているとのことでしたけども、実際に大通の南北で歩道を歩いてみましても、本当にここが風致地区かなというような都市景観になっているという現状があると思います。特に緑化率も高く決められていると思うんですけど、ほとんど緑がないというような現状かなと思いますので、こういったところ実際問題どうやっていくのかというのは一度議論した方がいいのかなと思っておりました。先ほど石塚委員から高さなどありましたけども、私もこのテレビ塔から山の方に向けて見える景観というのは公共的な景観になっているように思います。ですので、ここのテレビ塔からの視点を視点場として位置づけてそこから景観をどういう風に形成していくかっていうのも議論できたらいいなと考えています。
最後に、先ほど一番初めに冒頭でお話ありました芸術・文化のはぐくみを考えていくという言葉が出ておりましたけれども、今回そういったところの文章があまり見られないのはなぜかなという疑問を持ちました。特に西側の資料館、おそらく昨年重要文化財になりましたし、先ほどありました時計台もあります。文化的な施設も集積しているのがこの大通の特徴だと思いますのでそういうところを絡めていかにまちづくりの方向性として、ちょっと歴史がないなんて話も聞いたりしますけど、レガシーとしての大通公園、それから周辺にある歴史的な建物をどうやって繋いでいくかっていうのも議論出来たらなと思いました。

（村木座長）

ありがとうございました。附置義務駐車場のあり方とか、将来高齢化のことを考えたときに、自動車の関係がどうなっていくのかというのもあるかもしれません。視点場の話や緑の話、あと芸術文化といったところで資料が少ないのではといった指摘があったと思います。他にご意見いかがでしょうか。

（門田委員）

門田でございます。先ほどの 28 ページ、そこでまず大通沿道の将来像ということで一つ目ですが、大通と沿道が一体となっての一体ということについてお話をさせていただきたいと思います。私も大通公園歩きながら通勤したり、天気がいい日とか紅葉が徐々にきれいになっていてとても良い気持ちのいい空間です。ただ、植栽というか緑が一体といえば一体に街路樹と公園がなっている気がするんですけれども、心地よい使われ方とか利用のされ方というところで沿道宅地と公園が一体になっているかというと、はっきり言うと全く一体になっていないのかなというのが個人的な意見です。

今回、大通公園と通りとそれに接する 1 枚の街区を合わせてはぐくみの軸ということでそこの在り方を検討するんですけど、先ほど石塚さんの話の中で極論を言うと一車線潰すということもあり、私も歩いていて、本当に使い方を一体化させようとすると、なかなか今の道路断面のままだと本当にできるのかなという思いがありまして、車道幅員を狭めてそこを半官半民的に使って心地よい空間を作るような仕掛けであるとか、かなり思い切ったことをやらないと、一体化はなかなか難しいのかなと思っています。

コロナ以前は大通公園で毎月毎月イベントがあって楽しくビールを飲んだりおいしいものを食べたりしていましたが、あとでコロナ禍になってみると、そういう使われ方が激変をして、実は親子で朝とか夕方とか、日中はそれ以外も結構人が出ていて、やっと市民中心に使われる公園になったなという実態が見てとれまして、いままでイベントに偏りすぎていたのかなとの思いがあります。

そういう中で、みどりの推進部の方も見えられている中で、しゃべれることとしゃべれないことあると思うですけど、どんなことをいま公園のほうの議論をされているのか、大きな方針、どんなことなのかっていうのを少しお話ししていただけたらこちらの方の検討の参考になるのかなって思っているのが 1 点。

あと、本日の資料の 24 ページ目でこれから働く環境としての大通沿道の強みとしてまさに豊かなみどりで心地よい空間ができれば、23 ページの課題のところにあったような働く場所ができて若い人が流出しないようなことにも寄与できるし、今一生懸命ソフト的な政策として③の札幌市としての政策でスタートアップシティってことで札幌市さんがやられていますけども、具体のこういうものをはぐくみの軸の豊かな環境の中で仕掛けていくと、いろいろな課題が解けていくという可能性があるのかなと思っています。

いろいろな人と話をしていると、すでにコロナ禍のなかで東京に勤めていた人が札幌に引っ越してきて、IT の人だったですけども、そういう状況が見られつつあるとか、特に今企業にとってもこれから優秀な人材を確保するためには新しい働き方とか住まい方に柔軟に対応することが求められると言われておりますので、そういう中でもはぐくみの軸の空間を活かしながら働くという視点を持っていろいろな仕掛けをしていくというのが一つ札幌の新しい付加価値を作ることにつながるのかなと思っているところでございます。

最後になりますが、26 ページに参考とする動向として公園を中心としたまちづくりということでうめきた 2 期が出ておりまして、うめきた 2 期というのは UR 都市機構が基盤整備や民間の誘導をしているところがございますので、今回検討委員会の少し参考になるのかなと思いまして、少し補足説明させていただきたいと思います。

うめきたプロジェクトはご存じの通り大阪駅のすぐ隣にあった貨物駅跡地の開発です。はぐくみの軸が建物更新をうまく活かしてということで、うめきたのように一気に作るのとは違うのでそういう難しさは違うと思いますけども、うめきたでは民間の事業者公募を行って今は三菱地所さんを代表企業とする JV でいろいろ進められているというところです。その中の一つのキーワードがひらがなで「みどり」というものがありまして、そのみどりっていうのが見るだけのみどりということではなくて、誰もが容易にアクセスできるオープンスペースのみどり、これは先ほどの石塚さんがおっしゃられたことにつながっていく概念だと思いますけども、そういうことでひらがなのみどりを定義して、みどりとイノベーションの融合拠点というのがうめきた 2 期のまちづくりの理念ということになっております。

このみどりですけれども、26 ページのイメージパースを見ていただくと、真ん中に防災機能を有した都市公園が約 4.5 ヘクタールあって、それと周辺の建築敷地で建築物と一体化するみどりというものを合わせて地区全体の約半分、防災公園と合わせて約 8 ヘクタールのみどりの空間を作り、そこの空間の中で交流の場を作ったり、実証実験の場ということでいろいろなチャレンジを繰り返して未来へのつながりを持っていくということで、管理自体も公民連携して民の方が一括でやるという方向でいろいろな提案がなされているところでございまして、うめきたについてはこのみどりを作って大阪の新しい価値を創造するということになっております。

うめきたとは違って、札幌の大通公園にはすでに緑豊かな空間があり、それの使い方ということをうめきたも参考にしながら新しい働き方などと関連しながら、札幌市さんの進めている起業支援とかと合わせてイノベーションを起こすことを札幌でもできると思いますので、ここの貴重な大きな空間を活用する視点ということで、新しい働き方と連携した使い方を検討することは重要なことかなと思っております。

（村木座長）

ありがとうございました。みどりの話が出ましたけども、愛甲先生、いかがでしょうか。

（愛甲委員）

北海道大学の愛甲です。後でみどりの推進部の方から説明があるかもしれませんが、都心のみどりづくり方針とその他のことも説明させていただきます。

都心のみどりづくり方針は都心部全体で同じように定めてある軸、緑地、それ以外の部分、都心部の全体でいうと緑被率はそれほど高くないということもあって、いかに民間とともに連携したみどりづくりをこれから開発行為がいろいろ起こる都心部でやっていくかということなどを議論しております。

その中で一つ大きなテーマが大通公園に関することです。どんな話が出ているかというと、今まで通り憩いとにぎわいを両方両立させなければいけないというのがあります。さきほど門田さんがおっしゃっていた通りイベントが多いです。札幌を代表するような観光客の楽しむイベントがある一方で、散歩する方が非常に増えた印象もありますので、もともとの魅力はそういうところだったと思っています。

さらに、これからの再整備の必要性やさらなる連続化が考えられるのではないか、という議論もあります。また、空間が少し閉鎖的になっている印象があります。大通公園の中心に立つと素晴らしい公園の景観を楽しめますが、外側から見た大通公園は外に開いていないように見えて、街路に背中を向けている印象になっています。実際に写真をいくつか載せていただいていますけど、外側には駐輪や車が並んでおり、街路からは閉じたような雰囲気に見えているところがあります。昔の写真を見ると、植栽が大きくなっていない状態では、もう少し広い空間で街路や街区との一体感があったように思えます。場合によってはメリハリをつけて、見通しの整理により、一体感を醸し出すことも必要ではないかという議論をしています。

高野先生から指摘のあった、軸として感じられているかどうかについては、南北に比べて東西軸の主張が弱いのは、景観でも感じます。目線で撮った写真や建築物の使われ方も含めた資料があれば今後の議論が進むと思います。

また、28 ページのレジリエンスが気になっております。何をもって都心部のはぐくみの軸でグリーンインフラを展開するか、どういう機能を期待するかは、都心部ではそもそも限界があるように思います。レジリエンスが防災の観点では非常に重要であることは確かですが、一度災害が起きれば非常に大きな影響を受けてしまうという脆弱性の高さをいかに減らすかという観点と分析が必要と思います。

（村木座長）

どうもありがとうございます。どうやってメリハリをつけていくとか、閉鎖的というところ、私も札幌にくるともったいないなって思うことがあって、そのあたりのことも議論していけるといいかなと思いました。レジリエンスのことは次回以降、資料で検討したもの入れていただけたらいいかなと思います。他にいかがでしょうか。藤井さん、ちょっとお伺いし

たかったのは、藤井さん不動産的に今のようなご意見聞かれていて、大通の周辺のことなど実務をされていてどう思いますか。

（藤井委員）

皆さんの意見を聞いていてなるほどな、と思いながらずっと聞いていたんですけど、僕も素人だからこういう風にしたら良くなるっていうのがよくわからないから、実際にそうなってみたら、本当に素晴らしいなって思うんでしょうけれども。

今実際お話の中でも大通公園の周りの規制があまりなかったという話ありましたけど、うちも実際、会社は大通西 11 丁目にあって大きな看板を出していまして、ちょっと景観に支障をきたしているのかなと思ったり、居住用のマンションも西側に少しずつできたり、やはり統一性がないかなと思っています。

この大通公園っていうのが札幌が発展していく中で、街中の中心にあったというのは良かったと思うんですが、ただ実際、私自身が暇になって大通公園に行こうかとか、そういう感じにはならなくて。公園行こうと思っても中島公園で、そういう意味ではさきほどみどりの話もありましたけども、みどりの作りこみだけでも雰囲気がだいぶ違ってくるのかなと思いますし、今も大通公園歩いていても、ベンチが並んでいて歩いてちょっとそこで休むかくらいな、大通公園の真ん中辺りの芝生にはあまり上がっていかないかなと。その辺の作り方もよくなったらいいかなと思います。

あとそれに合わせて周りの建物ですね。やはり建てる側はよくわからないですから。こういう雰囲気の景観でやってほしいとそういうのがあればそういう風になるのかなと。建てる側もやっぱり見た目、景観がいいほうが気持ちがいいし、そうであればいいなと思います。

（村木座長）

ありがとうございます。作る側がわからないということはメッセージ性が伝わってない、そういうことかもしれないというのをお話伺いながら思いました。

（西山委員）

北大の西山です。景観審議会もやってきましたけども基本は観光と文化遺産が専門です。私は、この大通公園というのは素晴らしい文化遺産であるという大前提でちょっとお話しさせていただきますね。150 年を継承して次の 100 年を考えるという委員会、大変大きな役目を与えられているようにも思う半面、冒頭の事務局のお話を聞くと、定量的なものは踏み込まず、定性的な表現で計画を書きたい、あるいは公園そのものはみどりの方でやられるので直接は手を出さないということで。どんどんやるべきことがはぎ取られていって、この委員会では何がミッションなのかと、我々は何に思いを入れてこの委員会に情熱を注げばいいのかっていう。

私は建築の人間なので、設計条件みたいなものがはっきりして欲しいなと思います。この

委員会は何を議論していい委員会なのか。もちろんグレーゾーンはあるでしょうけど、私が思うのは一番最初に事務局でも、あるいは委員会としても腹を決めるべきなのは、今回の150 年を見据えて 100 年を考える、この大通公園という素晴らしいレガシーをどうするかということ。「あんな場所があるんだったらあの街に住みたい」という、日本人でも外国人でもいいんですけど、そうやって目指されるような都市になるポテンシャルを持っていると思います、この大通公園を核とした札幌都心部は。

私は 11 年前に札幌にやってきた人間ですけど、札幌というのはポテンシャルはあるけどアピールできていない街だなと、プロモーション的に。私はこういう空間がある街だったら本当にこの都市に来て住みたい、と思う街にしてほしい。そのためのアイデアを出す場としてくれるのであればありがたいと思います。そうしたいな。

でも今日の議論というか話を聞いていても、どこかでやれることは限られていて、今住んでいる人に納得してもらえる、住んでいる人が逃げ出さないような、今の札幌よりももうちょっと魅力をプラスしていけるようなことができたらいいな、という風に失礼ながら聞こえるんですよ。今ちょっと見ている人は少ないでしょうけど、日本沈没っていう新しいテレビドラマが昨日ありまして、そこでは札幌に首都を移転してくれるそうで。いやいや私は本当に、地震で日本が沈没しなくても、かなり東にシフトしてくると思っているので、もっと欲をもって、新幹線のことも考えながらやってもいいと思っているんです。

いずれにしてもそういうプロジェクトをやっていけば、20 年 30 年かかるけどそれで札幌の顔が変わる、というくらいのビジョンを持てないかということです。ただそんなことを議論していいのかどうか、次回までに許していただけるかどうかちょっと教えていただきたいです。例えばこんなことを思うんです。私はよそから来た人間なので、車で南北の道を走っていて、知らない間に大通公園を通り過ぎちゃうんですよ。当たり前ですけど 100ｍピッチで同じような交通量の道路が南北通っていて。100m のグリッドって大都市を作る幅員の広い道路を通すには小さいグリッドで、これをどの道も大事と、北から南、南から北に通過する、物流させなきゃいけないということで大事にしているものだからぶつ切りになっていて、この何十ブロックかが全然活きてなくて。要するに大通公園に行こうという目的地になっていないんですよ。

それと対照的なのが赤れんが庁舎ですね。あれは 4 つのブロックを 1 つのブロックにしてど真ん中に建物建てているからアイストップになっているし、少なくとも 4 つの方向から 1 つの目的地として認識できるんですよね。そんなブロックの使い方しているところは、実は札幌市内見渡してもないんですよ、都心の中では札幌駅を除いて。

ですから大通公園はこんなに地図、航空写真で見たら存在感大きいのに、地上を走ると存在感のない公園。もったいない。それから何人かおっしゃっていました裏側が外向いているからというのも同じ理由。だから少なくとも裏側は背中を向けないようにするための小さな努力を当然すべきだと。

ですけど、私はそういうものを解消するためには、これから自動車も減っていくのであれ

ばもうちょっと大胆に、20〜30 年先見据えて交通の考え方を、例えば 4 本の道路のうち 2 本は止めて公園の中をもっとペデストリアンフレンドリーに。ウォーカブルっていう言葉は今までが車中心で歩けない街だったからせいぜい歩けるようにしようっていう消極的な言葉に聞こえるんです。先ほど高野先生がコンパクトシティって使いましたけど、実際にコンパクトシティって言葉がアメリカで使われていたのは 80 年代から 90 年代初頭のころで、そこではペデストリアンフレンドリーということがものすごく重要視されましたよね。アメリカの街はまさに歩けなかったんですよね、見えていてもそっちに行けない。だけどそれを全く、ウォーカブルという概念をもう一つ飛び越えてずっと歩いて行ける。止まらずに。信号はもともとありませんけどそういう発想。ですから少なくとも大通公園の中はウォーカブルなんじゃなくて、大通公園およびその周辺にペデストリアンフレンドリーな空間を積極的に作っていく。

そのためにはこの東西の、極端に言えば車は下をくぐらせてもいいんじゃないか、さっき言ったように止めてもいいじゃないか、そういうことを選択肢に入れながら、もっと人が歩き回れる、何にも気にせずに都心の中を歩いていい、なのにちょっと隣のビルに入ると素晴らしい近代的な都市的なサービスが受けられる。これは中島公園ではありえないですよね。北大キャンパスも。北大キャンパスが素晴らしいのはやはり中をずっと歩けるからですよね。車のことを気にせずにほとんど。ですから私は北大の方が公園としてはるかに優れている、空間的条件として優れているように感じられるんですよね。だから実際すごく喜んで観光客が喜んで毎日訪れます。

ですからそういう空間的な設計をできないだろうかということは、みどりの方の中の話に足を踏み込んでしまって、けしからんのかもしれないですけど。先ほど言ったようにこういう空間があるからこの街に住みたい、行きたいと思わせるようなポテンシャルのある場所なんだから、それを題材とする会議として大きな視点を持つことができるのかできないのか教えていただきたい。最後に一つ、21 ページの左側の写真を見ながら聞いていただきたいんですが、150 年の歴史、4 ページの写真も重要ですけども要は 150 年かけてずっと変わってきているんですよね、使われ方、木々の植え方も歩道の付け方も利用の仕方も 150 年かけて変わってきたんだけど。私が文化財をやる人間として思うのはこの中でやっぱり、ずっと当初からある必要はないけど、これがなくなったら大通公園じゃなくなるよねっていうものは何なのかと。それからこれは変わってもいいじゃないかっていうのは何なのか。

例えばテレビ塔っていうのはランドマークでありシンボルであり札幌市民の誇りなんだけど、全国で同時期に建ったタワーって文化財に指定、登録されていないのはここのタワーだけなんですけど、実はこのタワーなくなってもいいのと、市民の皆さんに聞いてみたいですよね。色を何色に塗るかっていうのは景観審議会で議論になりましたけども、私はこれは札幌のやっぱりシンボルとしてみんなが愛しているから不可欠なものだろうとたぶん思うんですね。

同じようにいくつかの資料館とかいわゆる文化財的な建物もありますが、それ以外にも

道路のパターンがものすごく大事なのか、噴水があるような西洋風な公園パターンが大事なのか、いやなくなってもいいのかとか、もっといいものになればなくなってもいいのかとか。沿道の背の高い広告は本当にこの大通公園のシンボル、不可欠な要素のなのかとかね。そういうことを考えたときにやはり絶対欠くべからざるものを一つははっきりしてほしいと。

それから、変えてもいい可能性があるものがあったらそれを設計、我々が考える条件として与えてくれたら我々はいろいろな要素を盛り込むことになるかもしれないし、一体利用のことを考えるかもしれない。そういう風なこと、やっぱりこれは普通にものをデザインしようとするときに当然やるべきことを、あまり部署が分かれていたり定義がありすぎて、本当はやらなきゃいけないことができないなっていうことはないんでしょうか、ということをちょっと聞きたいですね。それが我々が最初に言った設計条件、それが大通公園というものを本当に蘇らせて、魅力的なものにある意味生まれ変えさせる、そういう風なきっかけになるといいなと思います。

（村木座長）

ありがとうございます。この委員会で何を議論していいのか、今ご指摘のあった点はランドマークのようなあったほうがいいもの、なくなってもいいもの、そのあたりを議論するってことは公園の中に入ってしまうので、ここで行うミッションと条件とそういったところの整理というのを事務局でしてくださらないと議論をどうしていいかわからないということで。今お答えになりますか？　残りが 15 分しかないのでもう別の方の議論をさせていただいてもよろしいですか。

（札幌市　小角まちづくり政策局長）

小角でございます。各委員の皆様には非常に貴重なご意見いただきありがとうございます。この大通公園、この検討会で議論の範囲は、ミッションはどうするのかということについては、今日の会議の前に事前のご説明したときに各委員からいただいていることでございます。

現在私共としても、ご意見でもありました部署ごと公園はどこだから道路はここだからというようなことでなかなか整理がついていないところでございますけども、今後この 100 年後に向かってどう街の資産を残していくのか、活かしていくのかということでございますので、できる限り幅広いご意見をいただき、そしてそれが計画の中でも反映する、あるいは関連する計画の中の検討していく中での参考になっていくのが望ましい姿だと感じております。

今すぐここまでですと線を引くことはできないんですけど、次回の会議までに庁内でどういう整理で頂いた意見を検討、反映してくのかというのを含めて整理したうえで改めてご説明ご案内させていただければと考えております。ここですぱっと答えが出てこないと

いうことで大変申し訳ないんですが、そのような形で進めさせていただければと考えております。

（村木座長）
ありがとうございます。では、このあたりの整理の方、どうぞよろしくお願いします。残り 10 分になってしまったけれども、30 ページ以降のゾーンごとのまちづくりの現状についてご意見、ご質問お願いしたいと思います。申し訳ないですが先生方コンパクトにお願いいたします。いかがでしょうか。

（石塚委員）
高野先生のご指摘の通り、軸っていうのは室蘭焼き鳥と考えるべきじゃないかなと。室蘭焼き鳥が大通公園焼き鳥だとか、駅前通焼き鳥もあるし、創成川通り焼き鳥もあるわけです。それらを肉付けする部分をちゃんとゾーンの中に入れておかないとうまい議論ができないんじゃないかなって気がしています。
今回のゾーンのたたき台は、軸で分けて軸と軸の間をゾーンとしていますけども、本来、大通交流拠点、創世交流拠点を含んだエリアとしてゾーンを設定しないと適切な議論にはならないんじゃないかと。ゾーンを細かく分けるとここは何、あそこは何って、西山先生がおっしゃられたように小さく小さくできてしまうことになるので、もう少しざっくりとしたゾーンの考え方でもいいんじゃないかなという気がします。
大きく考えると、石山通から西側っていうのは石山通の分断要素が大きいのが一つあると思うんですけども、駅前通を中心として創成川含んだエリア、創成川の東 1 くらいまで含んだエリアで一つとって、その西側を西 11 丁目との間で一つとる、残りが創成川東となると思うんですけど。
特に創成川東って誰も軸として認識していないエリアだと思うんですけど、ここのポテンシャルってものすごくあるんじゃないかなという気が個人的にしています。ここは低未利用地が多く、かつ地価が安いという特性があります。これは都市を元気にしていくと言う意味でいくと問題地区になるわけですけど、スタートアップということを重視したときに、スタートアップを促すことができる可能性が満ちたエリアというところになります。そうすると大通公園というレガシーとどのように結びつけてそのポテンシャルを引き出すかという位置づけで東は扱っていければなと思っています。
西山先生がおっしゃられた「どこまでが議論の範囲か」っていうのは、今後の計画の進め方と大きくリンクして議論されるべきなんじゃないかと思うんです。今後の進め方っていうことでいうと今まではここでの議論をもとに構想を作って、次に実施に移していく為の基本計画作って、実施計画作って、予算付けて実施するっていうそういう流れに乗るかどうかで構想というのは判断されると思うんですけど、今はもうよくあるタクティカルアーバニズムっていう言い方もされていますけども、要は試しにやってみる、戦術的にそこを社会

実験的に実現させる、理想の形に実現させて市民やいろんな関係者が評価をして本格整備をすべきかどうかという議論をしていくという進め方の方が、現実味があるのではないかと思っています。そういう観点からいくと西山先生がおっしゃられた大通をいくつかのブロックを連結してスーパーブロックとする方針をきちっと立てて実現すべきかどうか、どうやったら実現できていくのかということを今後の進め方、戦略のところできちっと書き込むっていうことで整理がつくんじゃないかなという気がしています。

（村木座長）
　他にいかがでしょう。短めでお願いします。

（岡本委員）
　岡本です。いま伺って思ったのが、それぞれ特に札幌駅から伸びてくる大通創世交流拠点の辺りは、すでに決まっている計画とか方針とかがある中で、あり方を検討する前提の手厚さが違うと思います。現状で決まっているものと、はぐくみの軸として考えていかなければならないものとの整合などを、少し丁寧に確認できるようにしてもらえたらうれしいと思います。
　あともう一つ、22 ページの資料に戻ってしまうのですが、写真を見ると時計台に札幌市役所の影がかかっていることに改めて気がつきました。札幌市役所にはぜひ移動していただいて、大通公園と一緒に、中央区役所の代替で使っているこちらの建物も、さらに道新さんも移転されるとごそっと空きますから、ここを先行してはぐくみの軸を象徴する空間に仕立てるのも積極的に検討すべきじゃないかと思います。

（村木座長）
　ありがとうございます。他いかがでしょう。

（高野委員）
　西山先生のお話でもあったんですけど、ここで住んでみたいというときに現状で例えば大通公園沿線のマンションとかオフィビルとかに、例えばパークとかガーデンとかそういう名前を付けて公園に近いということを売りにしている不動産物件はどのくらいあるのか。それはどこの辺まで及ぶのかというのを見たうえで、我々の目標としては、はぐくみの軸の沿線だから、はぐくみという名がつけば軸として非常に大きな効果があげられると思うので、それを目標としつつ、現状でどのくらいガーデンとかパークという建物が大通沿線にあるのかというのをやってもらいたいなと思いました。藤井さんはすでにご存じなのかもしれませんが。以上です。

（村木座長）

ありがとうございます。他いかがでしょうか。それでは、時間になりました。先生方多くのご意見ありがとうございました。

最後、私が一つだけ申し上げたいのが、いろんな可能性があることを検証するのに、例えば今ある車道をパークレットみたいな形で使って、冬はそこが堆雪場になってしまうのかもしれないですけど、夏場にもっと人が使えるような空間の実験みたいなものを国も巻き込みながらやってみるというのもいいのかなと思ったところです。

今日は議論ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。

（札幌市　岩田都心まちづくり課長）

本日は多くのご意見をいただきましてありがとうございました。議事録につきましては皆様に内容をご確認いただいたうえでホームページにて公開させていただきます。次回の検討会の開催は 12 月を予定しております。具体的な日程につきましては改めてご案内させていただきます。本日は長時間ありがとうございました。以上で閉会させていただきます。